

岡山畜産便り 14年

本誌の初刊は昭和24年11月で、この10月で満14年を迎えることとなりましたが、当時は戦後の畜産の復興がようやく緒についた、世相もいまだ混とんとした時期で、現加本鳥取県畜産課長、蔵知県酪農大学校長が時の畜産課の係長として敏腕を振って居られました。そしてこれらの先達が県の畜産振興のために、県内外の畜産情勢や畜産技術を、畜産技術者や畜産農家に広く知らせ、お互いに連絡を取るためのよりどころとしようとして、会員制にして畜産広報誌を創刊されたのが本誌の生い立ちでありました。

現県酪連会長、県畜産会長の惣津律士氏が農林省から畜産課長として本県においでになったのも丁度この頃で、以後同氏の指導のもとに県畜産は大躍進を遂げ、本誌も畜産研究会長としての同氏に育てられ、営々として県畜産発展のため蔭の力として、県下唯一の畜産広報誌として尽くして参りました。

昭和35年同氏が県監修事務局局長と栄転され、それ以後蔵知毅氏、本年5月からは現出口孝吉畜産研究会長の指導により活動を続けてきたわけであります。

この長い間に編集を担当したのは、それぞれ時の県畜産課の担当係長の前記の加本一久、蔵知毅の両氏をはじめ、花尾省治、林正夫、石井敏雄、宇野仁の各氏に現今本香豆彦が当り、その下にあつて編集の実務にあたったのは三秋尚、多田昌男、佐藤勤、長江勘次郎、阿部富士郎の各氏に現片山秋坪、塩田年があたりました。もちろんこの間本誌の原稿の執筆や会員募集などについて、各方面の筆紙に尽し難い暖かい御協力いただいた莫大なエネルギーの集積の結果であることは申すまでもありません。ここに長い足跡をふり返り、あらためて深い敬意と、御礼

を申し上げたいと思います。

一方36年7月岡山県総合畜産連発足にともない10月より同連の指導機関誌として「総合畜産」が発刊されましたが内容や購読層にどうしても重複するものがあり、両者共に発行に支障が伴う事態が発生し、そのためこれの一本化の声も出て参りました。また本年2月、県畜産会では会長に惣津律士氏が就任、陣容も強化されたのを機に、畜産会でこの両者を総合のうえ総合誌の発行の計画が具体化し、夏以降協議を重ねた結果、いよいよ11月号から同会において編集を引継いでいくことになりました。なお再発足計画にあたって誌名は各方面の意向から歴史ある「岡山畜産便り」をさしあたりそのまま引継いで発行しようということに決定をみました。

またさいわいなことに現畜産会長は本誌の育ての親でもありますし、編集には本研究会からも参画することになっており、内容もさらに新しく地方色を盛り込んだ親しみやすいものとするよう企画されていますので、引続き御愛読・御支援をいただきたいと思ひます。

このように従来研究会の制度が変り発行の責任が移管されても、実質的にはより充実した広報誌として再発足するわけでありますので、多数の会員諸兄、畜産の同誌諸兄語らい合わせ、一層の御力添えを賜うよう重ねてお願い申し上げます。

(編集係)